



遠藤れい子ひまわりレポート新年号

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443



原発のなし 新潟県を子や孫に残したい

～日本共産党の議席を取り戻し、県民の声が届く県政へ～



福島県議の神山えつこさんと新潟県府包囲行動で「原発再稼働ストップ！」遠藤れい子

年頭のごあいさつ

遠藤れい子

皆様、あけましておめでとうございます。今年は午年、明るく元気な飛躍の年にしたいものです。

一方、午年には「慎重さが求められる年」ともいわれています。

11月7日の高市首相の慎重さを欠いた発言で対中国外交は傷

つき、経済にも悪影響を及ぼしています。世界情勢が不穏な今こそ、首相の役割は周辺国と信頼関係を築くこと。憲法9条の原則に立ち戦争を避け、安心して暮らせる環境を整えることでは

ないでしょうか。

安心な環境とは、福祉を充実

し、短時間労働で、暮らせる賃金が得られる国です。ドイツの労働時間は日本より300時間少ないのに平均賃金は2倍。人口は日本3分の2なのにGDPは日本を抜いて3位です。『短時間労働で生産性が高い』のがドイツといえます。

なぜなんだろう？

マルクスの資本論にそのヒントがありました。「剩余労働時間」＝自由に処分できる時間を活用し、労働者は発達する。発達した能力で生産性を高め経済が発展していくのです。

「ワーカーライフバランスを捨てる」と宣言した高市政権は逆行しています。「国民に強要するものではない」などと言っていますが、トップの姿勢は大きく影響を与えています。

防衛費を倍増し、アメリカ言いなりに大量の兵器を購入し、GDP比3・5%の防衛費の拡大に躊躇

進めています。「軍事費調達」のため大増税が必要となり、苦しい庶民の生活がさらに圧迫されます。

野放図な国債発行で財政破綻の危険が高まります。それは周辺国との緊張を高め、平和がいつそ脅かされます。

新潟県をみれば花角知事は、県

民の意向を無視し原発再稼働を進め、病床や病院を削減するなど、国の悪政を先取りしています。県民のいのちと健康を守るためにには、医療機関を守り、医療・介護・福祉の充実こそ最優先にしなければなりません。

今年は知事選があります。皆さんとともに声を出し、足を出し、力を合わせて、原発再稼働をストップさせる県知事の誕生に頑張りたいと思います。

裏金を許さず、民主主義と

平和を大切にする日本共産党の躍進をめざします。皆さん、

健康で笑顔で頑張りましょう。



【れい子のお願い】

- ・しんぶん赤旗と日曜版のご購読の皆さん、後援会ニュース読者の皆さん
- あなたのお知り合い2人に「ひまわりレポートを読んでほしい」とお薦めください。
- ・私の願いは「家族そろって食卓を囲み、何気ない話に笑って泣いて喜んだり安心して生活することです。県民の生活を応援する県会議員が必要です。お力を貸しください。



1月「県民投票条例制定を求める請願署名」長岡市選管に19,822筆を提出 10月末から、雨の日雪の日も市民から寄せられました。



2月 医療・介護・子育て・原発・大雪対策を政府に要望

日本共産党新潟県地方議員団は政府要請を行いました。医師確保病院経営に関する要望、介護の確保、子育て支援、原発問題、緊急の大雪対策など8省庁に要望書を渡し懇談しました。



※ひまわりレポート1年間の抜粋

3月 署名143,196筆を新潟県に本請求する

花角知事に面談し、14万筆の声を届けました。



4月 長岡市に8項目の緊急要望。市民生活に支援を！

市民生活緊急支援を実施すること。医療確保に支援すること。



5月 憲法大集会で発言

毎月の総がかり行動を積み上げ、アオーレ長岡前で憲法大集会が開かれました。共産党を代表して遠藤れい子は憲法9条の大切さを発言しました。



7月 長岡戦災資料館の使命

「私たち長岡市民は長岡空襲により犠牲になられた方を悼み、悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、平和の尊さを後世に語り継ぎ、広く世界に向けて発信する。」

20余年で38万人が来館。26年5月に互尊文庫に移転オープン。



8月 長岡空襲～生死を分けた運命の分かれ道

8月1日、長岡空襲から80年平和祈念式典で献花。



9月 長岡の3基幹病院の病院長・理事長と懇談

医療機器や診療材料などあらゆるものが値上がり。診療報酬が低すぎて赤字が拡大。



11月 道理に反する花角知事の再稼働「容認」発言は撤回せよ！

県庁を包囲する人間の鎖行動に1200人

安全対策・防災対策の認知度が高くても再稼働の条件は「整っていない」と6割の県民は回答している。知事は「県民に信を問え！」



6月 平和を求める300回目スタンディング

「戦争法の廃止」を求めて始まった新婦人のスタンディング。10年続いて300回に。



10月 中之島ふるさとふれあいまつり

ふるさとふれあいまつりに参加。子どもたち、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんもふれ合って楽しました。



12月 新潟県医師・看護師確保対策課に要請・懇談

遠藤れい子と鈴木映新潟市議は共産党を代表して県に要請しました。

